

Prepare for the worst, hope for the best

— 最悪に備えつつ、最善を考える —

私も、「力を合わせて未来を拓く」「自律と協調の組織への転換」を掲げ、4月1日から学長に就任しました。そして、学長に就任して3カ月が経とうとしています。この3カ月は私個人のみならず、本学にとっても、わが国、そして全世界にとっても大きな変化を経験した時期になりました。

新型コロナウイルスによるパンデミックは、すでに世界で500万人以上の人が罹患し、30万人以上が亡くなっていると言われていま

す。全世界的にも都市のロックダウンや移動制限、ソーシャルディスタンスにより大きく人々の行動様式が変わりました。

首都東京にある国立大学である本学もこのパンデミックに全線を挙げて取り組んでいます。前線に立つた医学部附属病院のスタッフが他のスタッフや研究者たちがバックヤードから支え、院内PCR検査を実施し、歯学部

の教職員がフェイスガードを作製したり検体採取に協力したりと、今までにない一体的な取り組みができたことは、まさに冒頭に記しました方向性が実現し、大学職員の協力に頭が下がる思いです。

そして、本学の取り組みは、大きな社会的反響を呼び、メディアがスタートしていることも特筆すべきことです。

さらに、教育においては、直接患者さんと触れる臨床実習をはじめとする実習は、東京都からの大学キャンパス閉鎖の要請に伴い実施できませんでしたが、それに代わるものとしてオンラインの講義がさまざまな教員の工夫により実行されました。Zoomを駆使したグループ討論等は新しいアクティブラーニングの形と言えると思います。

最後に、全般的な働き方改革について言えば、事務職については病院を除き90%はテレワークと目標を掲げ、各自が創意を凝らしここまでテレワークができるのかと驚くような状況になっています。これは今後の男女共同参画にも大きくプラスになると思います。

東京において、新型コロナウイルス感染は沈静化しつつありますが、パンデミックの特性から次の波が来るのではないかと懸念され、またそれに備えなければなりません。

「最悪に備えつつ、最善を考える」は、本学の今目指す方向性だと考えています。

今回のパンデミックで社会は大きく変わるだろうと言われています。どこまでどのように変わるかは見通せませんが、本学も英知

を結集し、新しいあり方を模索し、社会に提示していきたいと考えています。それが知と癒しの匠を創造し人々の幸福に貢献するという、本学の理念を実践することになると信じています。今後皆様のご支援御協力を切にお願い申し上げます。



東京医科歯科大学学長
田中雄二郎

Yujin Tanaka

新学長メッセージ

- 2 東京医科歯科大学学長
田中雄二郎



新体制の紹介
組織図や役員・
副学長一覧

特集“チーム医科歯科”で 新型コロナウイルス感染症に立ち向かう

- 4 東京医科歯科大学のコロナへの取り組み
7 現場の医師の声
8 COVID-19肺炎疑い紹介外来
9 最前線で奮闘する看護師たち

- 10 欠かすことのできない裏方「バックヤードチーム」
11 コロナ感染拡大時のメンタルヘルスケア
12 歯学部リアルモードスタジオでのフェイスシールド製作
13 コロナ感染患者のリモートリハビリ
14 コロナ感染拡大時の分娩・出産
15 基礎研究者によるPCR検査サポート

医療にかける思いを聞く 医科歯科人

- 16 対談～ピンチをチャンスにするために
感染症の概念を覆す「新型ウイルス」攻略法～
田中雄二郎学長×河原和夫教授
18 MDアンダーソンがんセンターにおける新型コロナ対応

東京医科歯科大学発 すぐできる！身近なコロナ対策

- 19 マスク着用によるお肌のトラブル対策
19 コロナ感染とデンタルケア（歯磨き）

東京医科歯科大学サポーター

- 20 「Smile Food Project」
20 ジャニーズ事務所「Smile Up! Project」
21 室伏広治先生と錦織圭選手からの応援メッセージ
21 鎌田實先生とさだまさし氏からの応援メッセージ



今号の表紙

国宝である俵屋宗達の「風神雷神図屏風」をモチーフにした表紙絵です。未だ猛威をふるう新型コロナウイルス感染症に立ち向かうべく、本学が一丸となって取り組んでいる様を、力強い風神・雷神の姿に重ねました。一刻も早く、平穏な日々へと戻るように祈りを込めて…。